

## 平成19年度に実施された事業の結果報告及び今後の方向性(概要)

※本ページは各事務事業の概要紹介と19年度の報告を目的としています。評価の詳細については次ページをご覧ください。

事業名	ごみ収集事業(西部クリーンセンター)	所管	環境クリーン部 西部クリーンセンター 収集課
			TEL 2948-3141

事業の目的 (何の為に 行うか)	快適な市民生活環境の維持・向上のため、効率的な収集を行う。
------------------------	-------------------------------

対象 (誰を、何を 対象としてい るか)	市内全域の生活ごみ収集量	対象とした数	76,351	t
		実際に 利用した数	26,868	t

活動の内容	(何を したか)	西部管内のごみ集積所(3, 920ヶ所・H20.3現在)を、区域を定め、市及び委託業者により下記分別で収集する。 ○<燃やせるごみ>週2回<プラスチック>週1回<ペットボトル>月2回<燃やさないごみ・有害ごみ>月2回<びん・かん・スプレー缶>月2回<新聞・雑誌・ダンボール>月1回<粗大ごみ>申し込みにより市が収集(有料)○排出されたごみが不分別、収集日以外の排出をなくするため市民の方へ協力依頼及び分別指導をしていく。							
活動実績	項目名	ごみ収集量	26868	項目名	収集経費	734636	項目名		単位
			単位 t			単位 千円			単位

経費 (どれだけか かったか)	当初予算額(千円)	決算額(千円)	事業費合計(千円) ※人件費・公債費を含む	市民一人当たり単価(円)
	75,869	70,668	734,636	2,166.7

成果 (結果として どうなった か)	成果指標名	説明 (計算方法等)	目標値	実績	達成率
	1t当たりの収集コスト	年間経費÷年間ごみ収集量	26715	27342	97.7
			単位 円	単位 円	単位 %

今後の 方向性 (所管の意 見)	総合 評価	* 事業の継続 ⇒ 拡充 縮小 統合 * 改善・効率化 改善余地なし その他〔 〕							
		終了 ⇒ 事業完了		終了		休止			
	予算	* 現状どおり		増額		減額		終了	

今後の 方向性 (二次評価の 意見)	総合 評価	二次評価実施の有無 有り⇒下記評価へ * 無し⇒終了							
		拡充	縮小	統合	改善・効率化	改善余地なし	その他〔 〕		終了
	予算	現状どおり		増額		減額		終了	

# 平成 20 年度事務事業評価表(一般用)

①事務事業名		担当	部課コード	051100	TEL	2948-3141
事業コード	051101	ごみ収集事業(西部クリーンセンター)	環境クリーン部	西部クリーンセンター	収集課	
開始年度	昭和 26 年度	→	終了年度	平成 年度		
グループ		収集グループ				

②事業の概要	事業の種類別	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務	<input type="checkbox"/> 法定受託事務	<input type="checkbox"/> 法定受託+附加	根拠法令			
	分野別計画・指針	所沢市一般廃棄物処理基本計画			廃棄物の処理及び清掃に関する法律			
	関連・類似事業	ごみ収集事業(東部クリーンセンター)東部クリーンセンター収集事務所 一般廃棄物収集運搬業務委託事業・廃棄物対策課						
	総合計画の体系	政策	第1章 緑豊かな ゆとり・うるおいのあるまち	施策	4節 廃棄物・リサイクル	中柱	2 適正処理の拡充	小柱
・H19市民意識調査における施策の順位…43施策中 4 位		・実施計画における位置づけ…H19 *** H20 ○						
行政改革大綱における行動計画への位置づけ								
コード	1111	市民の知りたい情報の提供	コード	3211	民間委託化の推進	コード	3621	事務改善活動等の充実・強化
事業開始の背景	昭和25年11月に市制を施行し、翌26年10月から市民の生活環境の向上を図るため、近隣市町村では初めて自動車を導入して、市営のごみ収集・運搬事業を開始した。							

③事業の内容	目的(何のために行うか、具体的に)						
	快適な市民生活環境の維持・向上のため、効率的な収集を行う。						
	対象(誰を、何を対象としているのか)			利用数の考え方			
	市内全域の生活ごみ収集量			区域内からの収集量			
対象数	単位	平成 18 年度	78,592	t	平成 18 年度	27,771	t
		平成 19 年度	76,351	t	平成 19 年度	26,868	t
事業の具体的な内容及び実施方法							
西部管内のごみ集積所(3,920ヶ所・H20.3現在)を、区域を定め、市及び委託業者により下記別で収集する。○<燃やせるごみ>週2回<プラスチック>週1回<ペットボトル>週2回<燃やさないごみ・有害ごみ>週2回<びん・かん・スプレー缶>週2回<新聞・雑誌・ダンボール>週1回<粗大ごみ>申し込みにより市が収集(有料)○排出されたごみが不分別、収集日以外の排出をなくすため市民の方へ協力依頼及び分別指導をしていく。							

④前年評価と改善点	平成19年度事務事業評価結果(平成20年度の方向性)		≪ 最終評価 <input checked="" type="checkbox"/> 一次評価 <input type="checkbox"/> 二次評価 ≫	
	総合評価	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の継続 ⇒ ( <input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input checked="" type="checkbox"/> 改善・効率化 <input type="checkbox"/> 改善余地なし <input type="checkbox"/> その他 [ ] )		
	予算	<input checked="" type="checkbox"/> 現状どおり <input type="checkbox"/> 増額 <input type="checkbox"/> 減額 <input type="checkbox"/> 終了		
平成19年度中に改善した点				
分別されていない集積所について指導を行い、50ヶ所の集積所が改善された。				

⑤経費	《会計種別》	一般会計	平成 18 年度 (千円)	平成 19 年度 (千円)	平成 20 年度 (千円)	
	当初予算		48,154	75,869	64,788	
	決算(見込み含む)		85,470	70,668		
	(嘱託職員) (臨時職員)	( 人 )	( 300 人 )	( 人 )	( 300 人 )	
	正規職員人件費		71.35 人	656,420	70.68 人	663,968
	公債費					
	事業費合計		741,890	734,636		
	財源内訳	一般財源	741,890	734,636	51,988	
		国・県支出金				
		受益者負担金				
	市債			12,800		
	その他					
市民一人当たり(単位:円)			2,195.7	2,166.7		
利用数一単位あたり(単位:円)			26,714.6	27,342.4		

※「財源内訳」について平成20年度のみ、当初予算の内訳となっています。

⑥指標	項目名	計算方法	単位	H 18	H 19	H20見込み	将来目標
	活動実績	ごみ収集量	年間ごみ収集量	t	27,771	26,868	
		収集経費	年間経費	千円	741,890	734,636	
	成果分析	1t当たりの収集コスト	年間経費÷年間ごみ収集量	円	目標値 25,597	実績 26,715	27,342
			%	達成率 95.8	97.7		

⑦一次評価	評価項目	現状評価	評価項目	現状評価
	対象設定	事業の対象を見直す必要性 <input type="checkbox"/> 対象を絞る <input type="checkbox"/> 対象を拡大する <input checked="" type="checkbox"/> 見直しの必要なし	実施主体	現在の実施主体 見直しの必要性 市 <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
	他事業との整理・統合	類似・関連事業などの整理・統合 <input type="checkbox"/> 統合する <input checked="" type="checkbox"/> 連携する <input type="checkbox"/> 類似事業がない <input type="checkbox"/> 統合等必要なし	受益と負担の関係	受益者負担の有無 見直しの必要性 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
	明らかとなった課題	不分別集積所の一部改善は図られたが、19年度末現在で51ヶ所の集積所が不分別となっているため、引き続き限りある資源の有効利用、循環型社会の確立の観点から、地域の環境推進員、共同住宅管理会社や所有者と協力しながら、不分別集積所利用者への分別指導を徹底していく。		
今期目標項目(何を)	達成水準(どこまで)	時期(いつまで)		
平成20年度における目標設定	適正なごみ排出指導	西部管内に98箇所あった不分別集積所を2割減らす	21年3月末	
	取り忘れ防止	19年度比5割以下に削減する。(30箇所→15箇所以下)	21年3月末	
平成21年度における事業の方向性				
総合評価	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の継続 ⇒ ( <input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input checked="" type="checkbox"/> 改善・効率化 <input type="checkbox"/> 改善余地なし <input type="checkbox"/> その他 [ ] )			
予算	<input checked="" type="checkbox"/> 現状どおり <input type="checkbox"/> 増額 <input type="checkbox"/> 減額 <input type="checkbox"/> 終了			
評価理由				
本事業は、行政と市民が一体となることで効果が得られる事業である、他事業への影響も大きいことから、更に効果的な業務の改善を図るとともに、ごみ分別の徹底の協力依頼及び指導を引き続き実施していく。				
評価日	平成20年5月8日	記入者職氏名	課長 吉田上	

⑧二次評価	一次評価	平成21年度における事業の方向性						
	総合評価	<input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 改善・効率化 <input type="checkbox"/> 改善余地なし <input type="checkbox"/> その他 [ ] <input type="checkbox"/> 終了						
	予算	<input type="checkbox"/> 現状どおり <input type="checkbox"/> 増額 <input type="checkbox"/> 減額 <input type="checkbox"/> 終了						
	評価理由	評価日						
⑨個別計画における方向性	次年度用事前評価	部内優先順位… 位	非常に高い	高い	やや低い	低い	優先度評価	<input type="checkbox"/> A:優先的に資源配分をするべきと評価する事務事業
		見込まれる貢献度	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/> B:重要であり引き続き実施すべきと評価する事務事業
		評価理由	市長マニフェスト	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> C:現状での実施は見送るべきと評価する事務事業
◎環境基本計画		本事業の左記計画における位置づけ…有り		計画コード	322	323		
◎個別計画	施策の体系	3-2資源循環の促進	3-2-2リユース・リサイクルの推進					
	施策の方向	3-2資源循環の促進	3-2-3廃棄物の適正処理					
◎次世代育成支援行動計画		本事業の左記計画における位置づけ…無し		計画コード				
基本目標								
主要課題								
施策の方向								